



発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部44円
題字 井戸知事

消えるまで
ゆっくり火の元
にらめっ子

突撃取材、
君は

氷ノ山鉢伏山山岳救助隊

を知っているか？

氷ノ山鉢伏山山岳救助隊は、県下で唯一消防団の組織に組み入れられている救助隊です。

今回『兵庫消防』取材班は、養父市消防団(浄慶康治団長・団員数一、三〇二人)を訪ね、救助隊長、関係者の方にお話を伺いました。

◆発足の経緯(概略)

大正四年

氷ノ山、鉢伏山が山岳スキー場として開山されて以来、ボランティアとして活動を開始

昭和二年

氷ノ山鉢伏スキークラブにより遭難救助隊を結成

昭和三年

関宮町山岳救助隊を結成

平成一六年

養父市の合併に伴い養父市消防団に救助隊が組み入れられる

◆活動内容

救助隊の訓練は、冬季、中



合同訓練



訓練の様子

も雪が固まり始める三月頃に、雪山に登り、遭難しやすいと思われる場所を中心に歩き、毎年山の地形を覚え直しているとのこと。また、県警、養父市消防本部との合同訓練等も実施しているそうです。

実際の遭難救助の際には、自らが遭難するかもしれない危険との隣り合わせで、活動期間が一週間にもわたることがあり、過酷な救助活動となります。そんな厳しい状況にもかかわらず隊員達が救助活動を続けている理由には何があるのでしょうか？

隊長の長村賢一さんは、

「人が遭難していれば救助をする。それが当たり前のこととして育ってきたから。今後も辞めるつもりはない。」ときっぱり言い切られました。

それは、まさに隊員達の「熱き救助魂」。これこそが氷ノ山鉢伏山の救助活動を支えているものといえるでしょう。

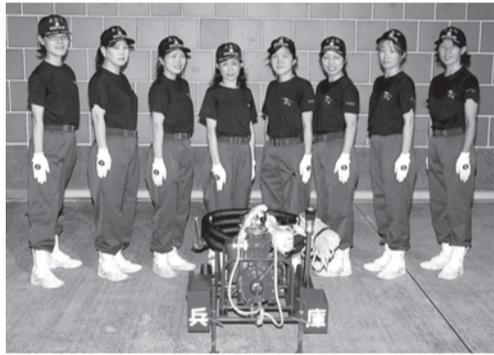
さらに、市町村合併の折りに救助隊が消防団組織に組み入れられたことで、隊員の身分も保障されるようになるなど、安心して救助活動ができる環境が整うことになりました。

◆氷ノ山について

氷ノ山から望む景色は、晴天であればまさに絶景とのことですが、その反面、天候次第では遭難する可能性もあります。

氷ノ山を知るプロ達からは、悪天候のときには、「せっかく来たのだから」、「夏にも一度登ったことがあるから」といった軽い気持ちで山に登ることは控える方がよいとのアドバイスがありました。十分に注意したいですね。

第十九回全国女性消防隊操法大会出場 赤穂市女性消防隊 “サクラ” 奮闘中



赤穂市女性消防隊 “サクラ”

来る十月二日、横浜市で開催される全国女性消防隊操法大会

に兵庫県代表として出場する赤穂市女性消防隊が、消防職員の熱い視線と指導のもと日夜訓練に奮闘しています。

昨年一二月、応募のあった中から心技体すべてを兼ね備えた女性消防隊員が誕生し、赤穂市の市木にちなんで、隊の愛称を「サクラ」と命名しました。

隊員は、看護師や主婦など十名で結成され、学生時代には陸上、柔道、球技で慣らした見事な体型を維持し、活発で俊敏な動きには目を見張るものがあります。

訓練場所は市の防災センター

兵庫消防学校

「第七四期初任教育」

兵庫消防学校では、現在、第七四期一六一名(うち女性七名)の初任教育生が、体力・知識・技術の面で一人前の消防職員となるため、日々厳しい訓練に取り組んでいます。

教育生は、年齢も一〇代から三〇代まで、学歴・経歴も様々です。四月から九月までの半年間、学校の寮に宿泊しながら訓練を行います。

これまでに行った初任教育の主な訓練を紹介します。

四月二三日の「御坂(みさか)体錬」。消防職員としての基礎体力と厳正な規律を体得しました。県下の各消防本部の先輩が指導員として参加して、教育生を鍛え上げていただきました。

五月一日の「強歩訓練」。林野火災を想定し、教育生各自が

を活用し、年明けの一月から消防操法に必要な礼式訓練を中心とした各個、部隊訓練を取り入れました。暖かい室内では気が合いが入らないと、小雪舞う屋外で真っ白な息が水銀灯に映る中、身震いしていたのは「サクラ」ではなく指導者でした。

桜咲く四月から、屋外での本格的な操法訓練を始め、可搬式ポンプ、消防用ホースの取扱いは操作など、女性にとっては普段縁のない「物体」に戸惑いを隠せません。また、指導者側も女性消防隊員は経験がなく、はたして全国大会を目指すチーム作りができるのかと不安と苦悩の日々が過ぎました。

「操作始めっ！」指揮者の号令が響き渡り、一斉に小型ポンプから躍動する操作員。筒先とホースを抱え一心不乱にダッシュ、張りつめた空気の中、標

的に向かい、ホースが一直線に伸びていく。礼式訓練から一連の動作を身につけたうえ、自分たちの意識も確実に高まり、当初の「家事・育児・仕事」の傍ら全国大会出場を躊躇する隊員も、今では別人のように目が輝き、滴り落ちる汗を拭うことも忘れ、一つの物を成し遂げる意気込みに溢れています。

今年梅雨明けが遅れ、猛暑、残暑の日が続く中での特訓。「自分との戦い」「自分への挑戦」は大会まで続きますが、日々の生活を犠牲にして全力で頑張る「サクラ」を応援せよといわれます。



強歩訓練・登山



大規模災害訓練・トリアージ

者が出る集団災害事故を想定し、治療の優先順位を決めるトリアージ訓練や救出訓練、応急処置訓練を行いました。現場の指揮を取った教育生の感想は「情報収集がうまくできなくて、指揮することの難しさを学びました。この経験を生かし、迅速な現場対応ができるよう訓練に励みます」。また、山林火災を想定した林野火災訓練、積み土のう工法を行う水防訓練、搬送訓練を実施しました。限られた

人的・物的資源をもとに最大限の効率的な活動をするための体力・気力・技術を養いました。教育生は、これまで経験したことのない厳しい訓練に耐え、消防に関する専門的な技術・知識の習得に、日々一生懸命に取り組んでいます。九月末には卒業し、一〇月からは県下各消防本部で勤務に就きます。県民の皆様が安心して暮らせる安全なまちづくりに貢献できるように精励してまいりますので、ご期待ください。

六月二五日から二六日の早朝にかけて徹夜で行う「大規模災害事故対策訓練」。多数の傷病

「消防団員
六〇年目を迎えて」

尼崎市消防団長
生越 敏雄



消防団の歴史は古く、明治二七年消防組規則が公布され、同年七月一日尼崎消防組が組織されたのに始まります。

大正五年四月一日に尼崎市が誕生、昭和一年四月一日に川辺郡小田村と合併、昭和一七年二月一日に立花、大庄、武庫村と合併、昭和二二年三月一日に川辺郡園田村と合併し、現在の尼崎市となりました。

その間、昭和二二年三月一日、消防団令が制定公布され、従来の警防団が廃止となり、新しく

消防団が誕生しました。さらに昭和三七年七月二二日に市内の六消防団を一市一団に統合し、尼崎市消防団として発足、現在に至っています。

私は、昭和二五年一月に小田地区の消防団に入団し、同年九月にジェーン台風の際、四mを超える高潮と強風により、地域の半分が浸水する被害を受け、約一ヶ月に渡る被災者救護活動を行い、「消防精神」の真髄を身をもって理解いたしました。今日まで幾多の火災・自然災害の現場活動を経験してまいりましたが、中でも、未曾有の阪神・淡路大震災、安全神話が崩れたJR福知山線脱線事故などは、生涯忘れられない消防団活動でございます。

初代溝口団長、第二代住山団長に続きまして、平成一四年に三代目消防団長に任命され、今年、入団六〇年目を迎える節目の年であります。消防本来の目的達成には、常備消防と消防



阪神尼崎駅南側の被害状況



道意町県営住宅の被害状況

団が両輪のごとく一致団結が不可欠であり、また消防団と密着した地域住民の防災に対する理解と協力により、地域力をより強くしてこそ、あらゆる災害から市民の生命、身体、財産を守

ることが出来るものであります。市民の皆様にも尚一層信頼され、感謝される消防団を目指し、「安全で安心して暮らせるまちづくり」のため、引き続き職責を全うしていきたく存じます。

「消防団今昔」

豊岡市竹野消防団長

山根 昌勝



豊岡市は、平成一七年四月に兵庫県の北東部に位置する北但一市五町が合併してできたまちで、消防団は多団制をとっています。

豊岡市竹野消防団は、昭和三〇年三月、旧四村が合併して

消防団今昔

61

竹野村消防団として誕生し、町制により竹野町消防団となり、昭和四八年一月に組織の再編が行われ、現在の六分団、一三三、定数三五八名の体制となりました。

私が消防団に入団したのは、昭和四四年一月、二五歳の時で、当時は地域の大人であれば誰もが当然のように消防団に入団しており、消防団に入団することでようやく地域の大人の一人と認められたような喜びすら感じながら、希望と気概を持って入団したことを覚えています。

豊岡市竹野地域では、現在でも消防団がその集落にとって大変重要な存在であり、当然に入

団すべきものとの意識を持って入団してくれる地域住民も多くありますが、少子・高齢化の中で団員数は徐々に減少し、現在は三二四名となっております。

私は、平成三年に副団長、平成一二年に団長に就任しましたが、中でも特に記憶に残っているのは、平成九年一月のロシア船籍「ナホトカ号」の沈没による重油流出事故への対応と、平成一六年の台風二三号の襲来です。

重油流出事故は、それまで経験したことのない災害であり、真冬の荒波押し寄せる海岸線に漂着したおびただしい量の重油の回収を進めるため、団員には

一般の方が近づき難い海岸線での作業従事を指示し、一日も早く美しい海岸の回復を願いながら、二次災害の無いよう団員の安全確保に腐心したものです。

また、台風二三号の際、竹野地域の中心を流れる竹野川の特長として、標高差九〇〇mを延長二五kmで一気に流れるため、豪雨時には瞬く間に水位が上昇し、越水や内水氾濫により地域を分断されることから、いち早く体制を整えるよう指示し、団員には二日間わたって人家や危険箇所の巡回、水防活動に従事させることとなりましたが、幸い竹野地域は人的被害も無く、比較的被害の少ない方で、

地区通信
夏を彩る洲本の「まつり」

洲本市

平成一八年二月一日に旧「洲本市」と「五色町」が合併した「洲本市」。

長い間、同一藩政であった関係で文化面でも共通することが多く、「阿波殿様蜂須賀侯が今に残せし…」の文句で始まる阿波踊りもかつて、洲本では、三熊(洲本城のある山)踊りと呼ばれていましたが、徳島の阿波踊りが全国で有名になってからは、同じように阿波踊りと改称され行われることになりました。

一つは、昭和二三年八月に阪神間から訪れる海水浴客のために、洲本市と洲本商工会議所が主体となって、島内のだんじり歌、盆踊り、人形浄瑠璃等を洲本に集め開催した演芸会が、観衆から絶賛を浴び、その後、年々趣向を凝らして実施されている「淡路島まつり」。近年は、初日、二日目の「阿波踊り」と最終日である三日目の「花火大会」で構成されています。淡路島は、江戸時代は阿波藩(現在の徳島県)の領地であり、洲本には蜂須賀藩の城代家老である稲田氏が居城して政務をとっていました。このことから阿波と淡路は

今回で六二回を数える「淡路島まつり」は、関係者の協力によって、観光の島「淡路」の夏になくてはならない「まつり」になっており、本年も七月三十一日(金)、八月一日(土)には「おどり大会」、八月二日(日)には、五、三〇〇発の「花火大会」が開催され、近畿各地や四国からも多くの観光客が訪れ、浜の潮風と「まつり」の熱気の中、洲本の夏を満喫しました。

また、もう一つの「まつり」である「高田屋嘉兵衛まつり」は、五色町が生んだ幕末の豪商高田屋嘉兵衛翁の遺徳を偲び、偉人の心意気にあやからうと昭和五五年以降、毎年お盆の八月一日に開催されています。

今年で三〇回目をむかえる「高田屋嘉兵衛まつり」は、都志海水浴場での「魚つかみどり大会」、アスパ五色での「少年相撲大会」、都志港湾では、恒例の「高田屋嘉兵衛音頭」と町内の子ども「みこし」等のパレードのほか、舞台イベントとして「だんじり唄」、ゲストの北海道大学「縁」による「よさこいソーラン」、「高田屋太鼓」



第62回 淡路島まつり「花火大会」



第62回 淡路島まつり「おどり大会」



昨年の高田屋嘉兵衛まつり「高田屋太鼓」

等楽しい催しが繰り広げられるほか、まつりのフィナーレを飾るのは地元出身の偉大な作詞家阿久悠さんを追悼する花火約一、五〇〇発による「花火大会」が開催される予定です。

本市消防団では、この歴史ある二つの「まつり」を安全に楽しんでもらうため、また、「まつり」開催中の火災等に即対応できるように、期間中、警戒出動として延べ約一七〇名の団員により、市民、参加者の安全確保に努めています。

わがまちの団長さん

⑬①

わがまちの団長さん

丹波市消防団

足立 進 団長



旧春日町消防団専任副団長を平成一四年より務め、旧六町が合併丹波市となり、平成二〇年一二月より丹波市二代目の団

北から南から

「地域の子供達とともに」

姫路市姫路東消防団 別所分団

我が分団は姫路市東部に位置し、姫路市立別所小学校々にあります。小学校・幼稚園・保育所は分団詰所のすぐそばにあり、普段から子供達に「消防のおっちゃん」と親しまれていま

小学校のすぐ前に詰所があり、門の側には防災倉庫もある同校の児童達は、登下校時や休み時間に何時も目にしている分団の消防活動を体験しました。また、過去に校区内で数日に亘って燃え続けた三件の林野火災におけるヘリコプターでの消

長職を拝命いたしましたして現在に至っております。丹波市消防団は団本部、六支団、三十八分団、団員定数二、六九六名の編成で消防団活動を行っております。また、近年少子高齢化、団員のサラリーマン化が進み消防団活動にも少なからず影響が出てきており危惧するところです。

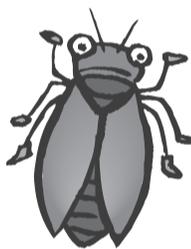
今、将来を見据えた中で、平成二三年四月より消防団組織の一期目の再編を計画、実施の運びとなっております。行政当局には資機材、装備のより一層の充実を図っていただき、旧六町の団員定数を平等化、均衡化し、組織のスリム化を目指しております。

最後に、今年四月より丹波プロックの長として県消防協会の副会長にも任命され、篠山、丹波両市の代表となりました。身に余る大役ではありますが、両市消防関係各位のご指導、ご鞭撻によりまして、任期を全うできますようよろしくお願い申し上げます。



地域の子供達と

「消火栓の水はどこから来るのですか。」：等々
子供達のキラキラ光る瞳と、好奇心いっぱいの質問など、私達団員にとっても充実した時を過ごしました。



「消防団に入団して」

南あわじ市消防団 広田分団 奈良 克彦



私が消防団に入るきっかけとなったのは、春祭りの獅子舞の練習に参加したときのことです。青年団の先輩方も消防団に入団されていて、練習の合間に消防団の活動について説明を受けました。ただ、私は高校卒業後、島外での大学生活を経て、就職し故郷に帰ってきて間もな

かったので、説明を聞いても全くどんな活動なのかイメージでしなかつたというのが正直な感想で、私にできるのか不安がありました。しかし、同郷の友人達が消防団の活動について話している時の表情がいきいきとしていて、誇らしげでした。同じ歳ながら頼もしく見えた友人達の表情に私は背中を押され入団を決意しました。実際に入団してみると活動は非常に多岐に及びました。活動に参加する中で、初めての木造家屋火災現場は火災の怖さを体験しました。

で先輩方が活動しています。消火栓開閉を消防隊員の指示に従って行うよう分団長から指示がありました。初めての火災現場で訓練もほとんど受けたことがなかつたので指示に従っている間は周辺を見渡す余裕もなく、煙が収まっていくのを緊張しながら開閉を繰り返すだけでした。改めて火災現場を直に見てみるとただ驚くだけで、少しの間嘔然と見ていました。この火災現場を体験して、私は日々の訓練の大切さがよく理解できました。先輩方の行動は迅速かつ正確で日々の訓練の賜物だと観て感じました。私も日々の訓練に励み、まだ微力ながら大好きな地域の安全に貢献できるよう頑張ります。

われら若手消防団員

〈21〉

消防団に入団して

姫路市安富町消防団 第一機動分団長 平山 政文



私が、安富町消防団の第一機動分団の一員になって早八年が経過しようとしています。入団したきっかけは、旧安富町役場に勤務していたため、入団した一年目は何もわからなまま消防活動、消防訓練に参加していたように思います。安富町消防団は、団長以下、第一機動分団、第二機動分団、そして各地区の一三分団の総勢

約一六〇名で構成されています。その中でも第一機動分団は、分団員総員八名と非常に少ないのですが、旧安富町全域を管轄地域としており、安富町域における災害対応の最前線で活動している分団であります。安富町は、古民家が多くあり、また、近年の開発により集合住宅も数多くなつてきております。

そのため、災害対応も多様化してきており、高度な対応と迅速な活動が求められています。しかしながら、現実には、日中の災害では分団員が遠方で働いているため、なかなか揃うことができず、その対応に苦慮しているのが事実であります。今後は、地域の皆様が安全で安心して暮らせるよう、分団員による定期的な消防訓練、研修



地区通信

北播消防ソフトボール大会を開催

北播消防協議会

北播磨地区は、西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町の五市一町があり、兵庫県のはほぼ中央部から南東側に位置しています。地区の中央部には中国自動車道、南部には山陽自動車道がそれぞれ東西に貫通しており交通の要衝となっています。また、県下最大の河川加古川とその支流が流れ、流域には播磨平野が広がる豊かな自然と歴史文化に恵まれた地域です。

北播消防協議会は、昭和三〇年に北播磨地区の各市、郡の消防団が、広域的な連携を図り、消防諸活動の向上発展に寄与することを目的に発足し、今年で

五四年を迎えました。北播消防協議会では、去る平成二一年七月五日(日)に今年度事業として、第十五回北播消防ソフトボール大会を多可郡多可町八千代区中野間のガルテン八千代グラウンドで開催しました。

この大会は、火災や災害活動に携わる消防団員の平素の体力や気力、連帯感を養い、また、北播磨地区消防団員相互の親睦を深めることを目的として、隔年に実施しています。

当日は、梅雨前線による雨も心配されましたが、時折青空のぞく絶好のコンディションのもと、北播磨地区の各消防団か

ら選ばれた七チームと北播消防協議会チームの計八チームが出場し、トーナメント方式で行われました。

開会式は、団員による一糸乱れぬ入場行進に始まり、梶間大会会長のあいさつ、来賓の方々

の祝辞に続き、九八名の選手を代表して、多可町消防団の藤井俊之副分団長が力強い選手宣誓を行いました。

このあと、二つのコートに別れて、来賓の井上衆議院議員と内藤県議会議員による始球式でプレイボールとなりました。

試合は、グラウンド内をこるせましと白球を追いかける選手達が、好守あり、長打ありの熱戦を繰り広げ、また、グラウンド上での選手の活躍に応援団も一丸となって熱い声援を送っていました。

各支部代表チームに混じって、北播磨各地区の副団長以上の幹部ばかりで結成した北播消

防協議会チームは、若干平均年齢が高いこともあり試合は大敗しましたが、みごとなホームランが出るなど大会を大いに盛り上げました。

試合結果は、次のとおりです。

- 優勝 三木支部
- 準優勝 加西支部
- 三位 加東支部
- 最優秀選手賞 三木市消防団 部長 常深 裕史
- 敢闘賞 加西市消防団 班長 鈴木 邦和

北播消防協議会では、これからも、今回のような行事を通して、北播磨地区消防団員相互の親睦を図り、体力・気力を高めることにより、消防の使命である、住民の生命身体を守り、信頼される消防団を目指したいと思えます。

まだまだ暑い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、今月号の一面では、水ノ山鉢伏山山岳救助隊、赤穂市女性消防隊、兵庫県消防学校「第七四期初任教育」について掲載しております。赤穂市消防団、兵庫県消防学校よりそれぞれ寄稿をいただきました。また、消防団今昔には尼崎市消防団長の生越敏雄さん、豊岡市竹野消防団長の山根昌勝さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

今回、『兵庫消防』の編集担当者は養父市にお邪魔し、県内でも類をみない救助隊についてお伺いしました。ご協力くださいました関係者各位に厚くお礼申し上げます。

編集後記



入場行進



白熱した試合が行われた



団長・副団長も大活躍

【お詫びと訂正】
「兵庫消防」平成二一年七月一五日発行第六一二号の地区通信(姫路市網干消防団)において、掲載写真のタイトルを誤って掲載しておりました。深くお詫び申し上げますとともに、次のとおり修正いたします。

正 消防操法
(誤 新入団員教育)



・操法最適ホース : コンベVシリーズ
 ・小型動力ポンプ : ラビットダイヤモンドフジシリーズ
 ・小型動力ポンプ積載車(標準型・全自動型)
 ・消防ポンプ自動車(モリタ)
 ・消防用資機材全般

西垣消防器具製作所
 669-5213 兵庫県朝来市和田山町玉置461
 TEL:(079)672-3131
 FAX:(079)672-3132
 E-mail: fp-nishigaki@eagle.ocn.ne.jp

消 防 団 服

甲 種 日毛・帝人・東レ団服・作業服・制帽
 乙 種 刺子・木綿
 ハッピー・ズボン・腹掛・革バンド
 附属品一式

キンパイホース 兵庫県特約店

株式会社 三 浦 消 防

姫路市竜野町1丁目1番地
 電話 (姫路) 92-0447
 (0792) 98-8663